

1 実践主題

「特別の教科 道徳」の評価方法の工夫

2 実践主題設定の理由

小学校学習指導要領の改訂により、平成30年度から道徳が「特別な教科 道徳」（以下、「道徳科」と記す）として教科化される。道徳教育に係る指導方法の在り方や評価の在り方が見直され、今まで見取ることが難しいとされていた道徳科の評価を実施していくこととなった。本年度、道徳教育推進教師の指名を受け、次年度からの全面実施に向け、道徳科における児童に対する評価をどのように行っていくべきか検討していく必要があると考え、本実践に取り組もうと考えた。

平成27年3月に、小学校学習指導要領の一部を改正する告示がなされ、道徳科の目標が「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」と明示された。これを受け、道徳科では、児童の学習状況や道徳的な成長の様子を把握し、今後の指導に生かすために適切な評価を行わなければならないと考える。道徳科は、他の教科と違い「数値などによる評価」は行わないが、ここに示された目標に照らして学習状況や成長の様子などを文章で記述する評価を行う必要がある。その際の評価は、学級担任が個人的な価値観で児童の道徳的な欠点や弱点を非難するようなものではなく、児童一人一人のよさを認め、道徳性にかかる成長を促すようなものにすることが必要である。そこでは、児童がいかにか成長したかを受け止めて、その努力を認めたり、励ましたりする個人内評価をいかに行うかがポイントになる。そして、児童一人一人が自らの現状や目標を見据え、道徳科を学習する重要性を認め、学習意欲を高め、今後の生活習慣や言動をより良くするような評価を学校として行うべきであると考えた。

そこで、道徳教育推進教師として、道徳教育推進委員会の協議において、道徳科の指導の評価について次のような提案をし、「評価チェックシート」の活用を呼び掛けた。

- ・道徳科の指導では、具体的な学習対象や学習事項に対する児童の気付きや深まり、ねらいとする道徳的価値に係る実践への意欲を評価していくことが大切であること。
- ・道徳科の指導の終末で、ねらいとする道徳的価値が児童に育成されたかどうかを判断することは難しいため、授業で考えた解決策や行動目標を実践したものを継続的に評価していくことが大切であること。

この提案は、児童の授業中の発言や学びの姿勢、ワークシートの記載内容から、また授業前後の児童の言動の変化を把握するよう努めることで、児童の内面の変化を見取ることができると考えたからである。実際に、資料「はしの上のおおかみ」（平成29年11月、第1学年において実施）において、相手も自分も尊重できる解決策を考えた場合、それを日常生活で実践できたかを評価したり、「（身近な）人に親切にする」という行動目標を立て、2週間ほど続けてどれだけ実践できたかを評価したりすることができた。

3 実践のねらい

児童一人一人の成長過程を重視し、「数値などによる評価」ではなく、道徳科の目標を踏まえた指導のねらいや内容に照らして記述式で通知表に示せる評価を行うための方法について、実践を通して明らかにする。

4 実践の内容及び方法

(1) 実践の内容

ア 通知表に示せる評価（記述式）の実際

イ 道徳科の指導における評価の工夫

(2) 実践の方法

道徳教育推進委員会に提案した評価方法について、校内研修全体会で協議し、共通理解を図った上で各学級担任に実践してもらおう。さらに、同委員会には、その結果を集約・検討した上で、改善策を提案していく。

5 実践の経過と結果

(1) 通知表に示せる評価（記述式）の実際

6月に道徳教育推進委員会を開き、本校が本年度より道徳科の評価を通知表に記述する（試行する）ことを受け、その具体策について提案した。

ア 表記について

表記方法

◎個人内評価（児童のよい点を褒め、励ましていく評価）で行う。

◎パターン化して記述する。

例：「資料名」の授業では、○○○について発言（話し合い・感想を紹介…）しました。友達の意見のよさに気づき、△△△の大切さについて考えることができました。

表記の視点

◎児童の道徳的価値の理解が、より多面的(事象を捉える視点を変えて考えている)・多角的（事象を捉える立場を変えて考えている）な見方へと発展しているか。

例：自分とは違う考えから学んでいる。

◎児童が道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

例：学んだことをどう生かせるかを具体的に考えている。

イ 表記の実際

・ 1学期

各学級の学習・生活上の課題を踏まえて行った道徳科の指導で取り上げた価値項目に対する児童の気づきや深まり、実践への意欲を評価し、記述していく。

【実際の記述内容】

「(資料名) かぼちゃのつる」の授業では、主人公のとった行動からわがままについて考えました。自分の意見だけでなく、友達の意見もしっかり聞き、主人公のとるべき行動について「つるを伸ばし続けるのはよくない」とアドバイスを書きました。

(1年2組Mさんの1学期通知表への記載文より)

・ 2 学期

「学級教育目標」（学年別の道徳教育目標を具現化させたもの）を踏まえて行った道徳科の指導で取り上げた価値項目に対する児童の気付きや深まり、実践への意欲を評価し、記述していく。

【実際の記述内容】

「(資料名) なかまにいーれて」の授業では、友情について考えました。一祖に遊びたい時や友達が困っているときは、「自分から声をかけたい」とワークシートに書き、休み時間に実践する姿が見られました。思いやりをもって友達と生活することのよさについて考えました。(1年2組S君の2学期通知表への記載文より)

・ 3 学期

「学校における道徳教育目標」（学校教育目標を具現化させたもの）を踏まえて行った道徳科の指導で取り上げた価値項目に対する児童の杵築や深まり、実践への意欲を評価し、記述していく。

(2) 道徳科の指導における評価の工夫

9月に再び道徳教育推進委員会を開いた。1学期に各担任が行った道徳科の評価を持ち寄り、通知表への記載文を検討したり、評価の見取り方について意見交換をしたりした。

その中で、授業ごとに評価がとれる「評価チェックシート」があると授業中や通知表に評価を記載する際にも活用できるのではないかという意見が出されたので、以下の実践に取り組んだ。

ア 教材 「おうだんほどうで」（出典：「みんな なかよく どうとく①」）

イ 主題名 ありがとう

ウ ねらい 気持ちのよいあいさつや言葉づかい、動作などの大切さを知り、お互いが

温かい気持ちになるあいさつをしようとする心情を育てる。

エ 学習指導過程

《導入》

○「あいさつ」には、どのようなものがあるか。

《展開（◎中心的な発問）》

○横断歩道で手を挙げているとき、たっくんはどんな気持ちか。

◎運転手さんに「ありがとう」の気持ちを込めてお辞儀をしたとき、どんなことを言ったか（思ったか）。

○運転手さんがにこっと笑ったとき、たっくんはどんな気持ちだったか。

《終末》

○言葉だけでなく、お互いが温かい気持ちになる「あいさつ」をしたことがあるか。

道徳科の評価は、児童を評価するための評価ではなく、指導に生かされ、児童の成長につながる評価でなくてはならないと考える。つまり、教師が授業改善を行うための資料

となる評価であるとともに、児童のよい点や成長の様子などを積極的に捉え、認め励ます評価であり、指導と評価の一体化が図られるものであると考える。こうした考えを踏まえながら、本時の評価では、指導のねらいに沿って、児童が学習活動において、自分自身の問題として考え、友達と意見を交わしていくことで考えを深めていく様子が見取れるよう、次のような「評価チェックシート」を作成した。

【「評価チェックシート」の実際】

平成29年度 1年2組 10/25		価値項目「主題名」		礼儀「おうえんほどうで」		
No.	児童名	評価規準			特記事項	個人内評価
		A (十分達成)	B (おおむね達成)	C (努力を要する)		
		あいさつよき理解し生活にいかずとしている	あいさつよきとのよきを理解している。	あいさつを大音量でしない		
1			○		うれしい あいさつをした	朝の会で大きな声であいさつする。
2		○			元気いっぱい人の目を見て	○
3		○			大きな声であいさつをした	
4			○		あいさつをいつまでもやろうと思う	
5			○		礼儀正しくあいらしい	自分からあいさつする。
6						
7			○		かまぼくいう あいさつ	
8			○		うれしい気持ちであいらしい	ほほ海朝担任あいさつするはじめてきた。
9			○		ありがとう気持ちであいらしい	○
10		○			気持ちよく挨拶からあいらしい 元気、笑顔、人の方を見てあいらしい	大きな声で、元気があいらしい。
11		○			あいさつがはじまる。	○ 友達と一緒にあいさつする姿がみられる。
12		○			ちよと音がしたらあいらしい	◎ 教室でみんなは一人一人元気にあいらしい。
13		○			元気いっぱいあいらしい	
14			○		あいらしい気持ち	友達と一緒にあいらしい雰囲気。
15		○			挨拶うしろをききながらあいらしい	◎
16		○			元気があいらしい。	◎
17		○			しっかりとあいらしい。	◎ 担任のほほえみしっかりとあいらしい。
18		○			元気が元々よく人を見てあいらしい。	

これは、他教科と同じように本時のねらいに関わる評価規準（3段階）を設け、児童の学習状況を踏まえて評価するものである。また、児童の授業中の発言や学びの姿勢、ワークシートへの記載内容などを自由に記述できる「特記事項」欄や、授業前後の児童の様子を見取りその変容を評価できるよう「個人内評価」欄を設けた。児童を多面的・多角的に見取り、評価につながられるようなシートとなるよう工夫した。

6 実践のまとめ

(1) 成果

- 道徳科の評価は、児童にとっては自らの成長を実感し意欲の向上につなげていくものとして、教師にとっては指導方法の改善・充実に取り組むための資料として、前向きに捉え実践に当たることができた。
- 学期末に児童のワークシートを見返したり、授業中の様子を振り返ったりしなくても
- 一単位時間ごとの「評価チェックシート」を積み重ねていくことで、一学期という

一定期間のまとまりの中で個々の児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子について評価することができた。

(2) 課題

- 道徳科の評価を行うに当たり、児童を様々な角度から見取るよう心掛けているが、児童の内面を見取することは難しい。評価方法だけでなく指導方法についても工夫・改善に努めなければならない。